

年の瀬も押し迫ってまいりました。SAFM会員の皆様におきましてもお忙しい日々を過ごしていることと思います。

今回、「SAFMニュース」を刊行させていただくことといたしました。今後半年に一度12月と6月の「SAFMニュース」の発行で、皆様に活動についてのお知らせなどをして参りたいと思います。

今年を振り返ると、4月頃から団体設立に向け、「音楽、アートを切り口に社会貢献をしたい」というとても大雑把で大きなビジョンを持ち、役員・正会員となる人材を集め、具体的なことが何もわからない状況で「何かお役に立てるなら」という部分で集まっていた寛大な皆様、心から感謝いたします。NPO法人設立にまつわる申請書類作成にまつわる事務作業をやりながら、構想ゼロから、自分たちでできることを一緒にやってみようというところから始めた、10月9日に開催された「しまなみアートファーム～はじめまして編～」初年度のドタバタのなか皆様一人一人のご協力のもと、たくさんのご成し遂げることができたと思います。

しかしながら、これからの活動の柱が曖昧なままであり、イベントをやりたいだけの団体として認知されることになってしまいかねないと考えておりました。そして、もう一度「できること」「やりたいこと」「求められていること」をよく考え、やはり、「音楽、アートからの国際協力」を柱とした活動をしていくことにいたしました。具体的な活動に関しては、2022年の活動計画において詳細を説明いたします。

「日本の問題や、住んでいる地域の問題の方が重要ではないですか？なぜ、国際協力なのですか？」という質問は、国際協力に携わっている人がよく尋ねられることですが、会員の皆様も、国際協力について実感が湧かないかもしれません。先日、ある国際協力と地域活性化を考えるセミナーで「グローカル」という考え方に触れたのですが、それが、大三島を拠点とするSAFMが国際協力をする上で、参考になるのではないかと思いますので、ここで触れさせていただきたいと思っております。

グローカル (Glocal) とは、グローバル (Global: 地球規模の、世界規模の) とローカル (Local: 地方の、地域的な) を掛け合わせた造語で、「地球規模の視野で考え、地域視点で行動する (Think globally, act locally)」という考え方です。もともとは、マクドナルドのようなグローバル企業が日本の地域性に合わせてテリヤキバーガーを開発するよう時に用いられたマーケティング用語だったのですが、最近では、「国境を越えた地球規模の視野と、草の根の地域の視点で、さまざまな問題を捉えていこうとする考え方。グローカリズム」(大辞林より)と意味を変えています。例えば大三島の人口の2%にもおぼる20代から30代の外国人(技能実習生が大多数を占める)を少子高齢化のすすむ大三島で重要な若い力として活躍してもらうために、外国人移民をたくさん受け入れてきた世界の国や都市の事例を参考にしながら考えるといったことです。他の例では、瀬戸内海のゴミ問題で、マイクロプラスチックは人体に悪影響を及ぼしていると言われていますが、海は世界中でつながっているので、大三島の状況を考えるだけでは意味がありません。気候変動やコロナの問題も同様です。遠いアフリカの国からコンピューターに必要なレアメタルを輸入しているなど、自分たちになんの関係もないと思っている国で起きていることは、実は生活に関係しているということはグローバル化の進んだ世の中ではよくあります。昨今の世界規模のパンデミックの状況禍にグローカルという言葉が至る所で使われるようになりました。このように、地域の問題を世界規模で考えることは重要であるといまだかつてないほど叫ばれるようになりました。

以上のような理由から、SAFMは大三島、しまなみ、瀬戸内海からグローカルな人材を育てるため、文化芸術から世界の多様性を理解する感性を育てるための活動をしていきます。そのために、大三島や、住んでいる地域で国際協力のためにできることをさせていただければ幸いです。世界には、自分たちが思いもしないような状況下で生活をしている人たちがたくさんいます。来年は、「ジンバブエ公立小学校での楽器を使った音楽授業プロジェクト」が始まります。そのような活動を通して、国際協力にご協力いただきながら、世界で起きている物事を自分ごととして理解できるような土壌を育てていきたいと考えております。来年も、ご支援ご厚情を賜りますようお願い申し上げます。



しまなみアートファーム 代表 吉田佳代

2021年 ふりかえり

しまなみアートファーム～はじめまして編～ (2021.10.9)

良かった点 (理事で話し合った時の意見をまとめています)

- ワークショップ、フードブース、ライブミュージックと、内容もバランスが取れたイベントだった。
- 受付がしっかりしていた事で、コロナ対策もでき、イベントとしてきちんとしたものになった。
- 集客目標100人の予定が結果的に180人くらいの集客であったので、イベントとして大成功であった。
- 会員一人一人の能力が高く、それぞれの持ち場での役割をきちんと発揮していた。
- 全員が非常に協力的に動いた。
- コーラスなど、地元の出演者も巻き込んだことにより、幅広い年齢層の大三島の住人に参加してもらえた。



「はじめまして編」として団体最初のイベントを皆で協力してやってみるということが達成でき会員同士の絆も深まりました。「大変だったけど、楽しかった」というのが会員の皆様の共通する感想だったと思います。今回の振り返りを次回への課題としていきたいと思っております。



改善する点

- 会場設営のための負担が大きすぎたので、皆が疲弊した。次回は、負担を軽くするために、他の会場にする。
- 次回は、イベントにおいてフードブースやマルシェなどと協力するときには、他の団体などに一任して、SAFMとしては、団体趣旨にのっとった活動に専念する。
- 環境クイズの参加者が少なかったため、次回は、ブースを設けるなどし、催事の一つとして認識してもらうようにする。
- 募金も前半に全くアピールをしなかったために、認知されなかった。ステージからの呼びかけなどを、最初からするべきであった。
- 自然素材を使った楽器作りのWSで合奏の時間がなく、楽器をただ作っただけになってしまった。

2022年 活動計画

ジンバブエ公立小学校での楽器を使った音楽授業プロジェクト

今回のプロジェクトは、イギリスの大学院でMusic in Development 学科の同級生で、音楽家で社会活動家のEdith WeUtonga氏 (Zimbabwe Musicians Union とZawadi Development Trustという子供に音楽をする機会を与えるための団体の代表) との共同プロジェクトになります。彼女は、ジンバブエで特に弱い立場にある女性音楽家のサポートや音楽をやりたけれども機会を与えられない子供たちに機会を提供するため、ロンドンをベースにジンバブエの仲間と活動をしています。



Edith WeUtonga 氏

ジンバブエは1980年のイギリスからの独立以来38年間の独裁政権が続いていました。内紛により政治経済情勢が不安定な状況が長らく続き、2008年には、経済も極度に悪化していました。その後、2018年に新政権が誕生し、これから政治経済状況が安定することが期待されています。

ジンバブエでは、音楽に興味のある子供たちは非常に多いと聞きます。児童向けの課外活動は、富裕層の特権であり、ほとんどの子どもたちが楽器を演奏するような機会をもつことはありません。学校には楽器がなく、音楽の授業では歌を歌うか基本的な西洋音楽の理論を教えることはありますが、1クラス68人まで在籍できるので、先生の目は全員に行き渡りません。合奏などの共同作業を通して社会性を身につけるなど、厳しい状況にある貧困層の子供たちに夢や希望を与えることとなるでしょう。2022年は、ジンバブエの小学校で楽器を使った音楽プログラムをスタートするにあたり、首都のハラレにある公立のイーストリッジ小学校をモデル校とし音楽の楽器を使った授業を始めるため、まずは、その学校にSAFMから50台の楽器を寄付したいと考えています。



首都ハラレのイーストリッジ小学校の子供達 (楽器はジンバブエの伝統楽器のドラムがあるのみ)

先生に楽器の指導法を教えるワークショップをもち、来年の9月の新学期から楽器を使った授業をスタートさせる予定です。そのクラスをジンバブエと日本の間でミュージックビデオを制作するなどの国際交流を通じて、お互いのことを知り、異文化理解を促進し日本から遠く離れた人々を思いやる心を学ぶことができればと思います。

会員の皆様、お知り合いの方々に家に使わなくなった楽器がないかお尋ねいただけますでしょうか。ピアノ、リコーダー、ハーモニカ、カスタネットなど義務教育で使用した楽器をご家庭でお持ちの方は意外と多いのではないかと思います。第一段は8月初旬に発送予定。それ以外の楽器も寄付したい方がいらっしゃいましたらお知らせください。



しまなみアートファーム～島の外国人編～

来年10月のしまなみアートファームのイベントでは、大三島や近隣の島にいる外国人の存在を知ってもらうための、文化交流イベントを予定しています。

令和3年11月時点で大三島には(今治市住民基本台帳人口統計より)約2%の外国人で住んでおり、多数が20代から30代の若者です。伯方島では5%近くが外国人です。少子高齢化が問題になっている中、これだけの若い力が知られることなく存在しています。大三島のデータがなく今治市全体のデータを元にしていますが、外国人の国籍は、中国、韓国・朝鮮、フィリピン、インドネシアと続きます。技能実習生として来日している方々が多いですが、このようにしまなみエリアに来日している外国人のことをまずは知ることから始めようというのが、このイベントの主旨です。



ガムランオーケストラの楽師たち。イギリスの大学院のガムランアンサンブルの授業

インドネシアのガムランアンサンブルの団体を招き(日本には、実は100以上の団体が存在します)、演奏とワークショップを通して、その魅力を伝えていきたいです。他にも大三島の盆踊りを外国人が習えるようなワークショップや、浴衣着付けワークショップなども考えています。

耕作放棄果樹園の柑橘を使ったアロマワークショップ

5月と12月に予定。「みんなの畑」で柑橘の花・実・葉を収穫する過程で柑橘農家の課題や地域の持つ環境問題を認識できるようにする。そして、アロマを抽出するワークショップ、他文化での伝統的なアロマの使われ方などを紹介し、異文化理解につなげる。申請中の助成金の1月の結果により実施。



チュニジアで子供向け環境教育ワークショップの中でアロマ水作りの説明をしている

一緒に活動してみませんか?

- 活動への参加の仕方
 - 1)会員になる
 - 正会員 (活動の中心的部分に関わる方)
 - 賛助会員 (イベント時などにサポートしたい)
 - 2)寄付をする

来年度は本格始動、活動が盛り沢山です。会員の皆様のご協力が不可欠となります。イベント時のみのヘルプ、興味のある活動だけを部分的にサポートでも構いません。どうぞよろしくお願いいたします。

活動に興味のある方は shimanami.art.farm@gmail.com
080-9985-5426
吉田佳代
までご連絡いただけますようお願いいたします。

来年も関係者の皆様とって、素晴らしい年となるように願っております。来年もまたどうぞよろしくお願いいたします。